



取りはずされて再利用されるバンパーを持つ、永田プロダクツの永田剛男社長と自動車リサイクル博士

未来の地球のために!

進め! くるまのリサイクル

第1部 使用済みになった車のゆくえ

1 解体編

今回から6回にわたり、自動車リサイクル博士が車に関するさまざまな現場をたずね、リサイクルへの取り組みを紹介していきます。第1回は「解体編」。人や荷物を運ぶ役目を終えた使用済みの車が運ばれてきた解体工場では、どんな処理が行われているのでしょうか。博士と一緒に見ていきましょう。

きちんと解体処理し

車のほとんどをリサイクル!

使える部品を再利用!

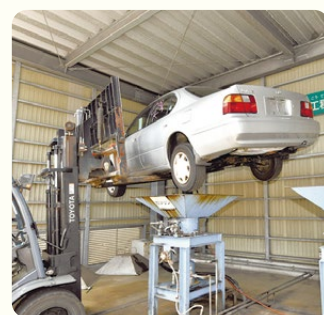


使用済みの車をきちんと処理!

日本では現在、年間約500万台の新車が販売され、300万台も車が使用済み(廃車)になりますが、その車はほとんどがリサイクルされています。1台の車は2万〜3万点の部品でできており、それらを取りはずしたり素材ごとに分別しなければ、再利用や資源としての再生利用ができません。また、乗っている人を事故のしよげきから守る「エアバッグ」や、カーエアコン用のフロンガスも、車をリサイクルするためには正しく処理をしなければなりません。

このため、使用済みの車が最初に運ばれてくるのが「解体工場」です。今回たずねた「永田プロダクツ」(山形県酒田市)でも、使用済みの車の適切な事前処理や、使える部品を取りはずして再利用する解体作業などで、車のリサイクルに大きく役立っています。

ステップ1 正しく「事前処理」



▲ガソリンの抜き取りは車の下に開けた穴から

液体の抜き取り。作業中の火災、環境汚染を防止

解体工場の中では、使用済みの車にガソリンなどが入ったままだと、安全に解体作業を行うことができません。また、もれ出したガソリンなどが地面に染み込

ふくらませて作業を安全に

エアバッグは、事故などで車がしよげきを受けたとすぐにふくらんで乗っている人を守ってくれます。でも、工場で作業中などに何かのきっかけでふくらんでは



むと環境汚染にもつながります。そこで、車の下からタンクに穴を開けてガソリンを抜き取ります。集めたガソリンは地下タンクにためて会社で使う車の燃料などに再利用しています。

抜き取ってストロップ温酸化



カーエアコンに使われているフロンガスも、きちんと回収処理しないとオゾン層の破壊や地球温暖化につながるため、正しく処理することが法律で決められています。その処理費用にも、車を買う人が「リサイクル料金」として支払ったお金が使われています。

フロンガスの回収作業は、ガスが大気中に放出されないよう使用済みな



▲「ふくらむ」にフロンガスを回収

ステップ3 どんどん「解体」

巨大なニブラが大活躍

人の手では取りはずせない重い部品も、ニブラという恐竜のような機械なら、軽々と取りはずすことができます。ボンネットやドア、エンジンなどがほとんど解体・分別されていきます。こうして分別された車のボディは、ペシャンコにプレスされ、「破砕工場」へと向かいます。



▲このニブラは電気で動くため、ガスを出さず音が小さいのも特長!

ステップ2 大切に「再利用」

まだ使える部品を取りはずして管理

使用済みの車は、まずバンパーやドア、ライトなどの状態がしっかりチェックされます。そのうえで、まだ使える部品は「いねい」に取りはずされ、きれいに洗ってから商品として大切に管理されます。当日、工場内を案内してくれた石黒さんは、「部品を再利用すれば、一から新しい部品を作るよりも、資源をムダにしないため環境にやさしく、また、部品交換が必要なのは費用を安くすることができると話してくれました。



▲ドアやバンパー、タイヤ、ミラー、ライトなど、再利用できる部品はたくさん!



▲ピカピカになって保管・管理されているドア



▲運転席も助手席も一緒に「ボン」!

永田プロダクツ
社名: 永田プロダクツ
住所: 山形県酒田市
車のリサイクルを中心に事業を行い、まだ使える部品は日本国内だけでなく、海外にも輸出しています
http://www.nagata-p.co.jp



こちらにおうかがいしました!

博士のまとめ

再利用で資源を生かしてるんだね。

解体の現場では、エアバッグやフロンガスが正しく処理されたあと、まだ使える部品を取りはずしたり、素材ごとに部品を分別したりすることで、どんどん資源が生かされているんだね。こうしたきめ細かなリサイクルの仕組みは、世界から注目されているよ。

さあ次回は「破砕」の現場をたずねよう!

自動車リサイクルをもっとくわしく学べるよ!
公益財団法人 自動車リサイクル促進センター
Japan Automobile Recycling Promotion Center / JARC
https://www.jarc.or.jp